

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
安定供給体制の整備推進												
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木質バイオマス利用促進施設の整備	地域材利用量(増加量・増加率)	275,667	m ³	R1 (2019)	441,000	m ³	R6 (2024)	626,000	142%	R6 (2024)	県林務課調べ 調査年月日:令和7年10月
		木質バイオマス利用量(増加量)	168,000	m ³	R1 (2019)	207,000	m ³	R6 (2024)	323,000	156%	R6 (2024)	県林務課調べ 調査年月日:令和7年10月
自立的林業経営活動の推進												
山地防災情報の周知												
森林資源の保護												
林業の多様な担い手の育成												
林業経営体の育成												
木材利用及び木材産業体制等の整備推進												

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
安定供給体制の整備推進		
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	事業実施前(現状値)と比較すると、地域材利用量は142%(441千m ³ →626千m ³)、木質バイオマス利用量は156%(207千m ³ →323千m ³)となり、目標を上回る実績となった。	指標である地域材利用量と木質バイオマス利用量を高めるためには、更なる素材生産性の向上と木質バイオマス生産体制の整備が必要である。そのため、高性能機械の導入促進や集約化を推進することで、素材生産性の向上を図るとともに、林地残材由来の木質燃料等の生産体制の整備及び、利用施設の整備を行い、木質バイオマスの利用体制の整備を図る。
自立的林業経営活動の推進		
山地防災情報の周知		
森林資源の保護		
林業の多様な担い手の育成		
林業経営体の育成		
木材利用及び木材産業体制等の整備推進		

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。